

麻生区区民会議 第1回専門部会『(仮称)麻生区の魅力発掘・発信検討部会』議事要旨

- 1 開催日時：平成28年12月19日（月）午後3時～午後5時
- 2 開催場所：麻生区役所 第2会議室
- 3 出席者：[専門部会委員] 安藤和彦委員、菅野明委員、鈴木昭弘委員、高倉秀敏委員、長岡さや委員
橋本周委員、林恵美委員、松田基久乃委員
（欠席）石井よし子委員、吉垣君子委員
[事務局] 企画課 井上課長、福島係長、鈴木、佐藤、榎本
[コンサルタント] 中島
- 4 傍聴者：0名
- 5 議 題：
 1. 正副部会長の承認について
【決定事項】
 - ・林恵美委員が部会長、高倉秀敏委員が副部会長として承認された。
 2. 部会名の決定について
【決定事項】
 - ・部会の名称は仮のままとし、掘り下げていくテーマと並行して決めていくこととした。
 3. 今後の専門部会の進め方について
 - (1) 部会の開催について
 - ・毎月第2火曜日の15時から開催することについて確認をした。
 - (2) 審議スケジュールについて
 - ・資料3により審議スケジュールの確認・共有をした。
 - ・3月は全体会が開催されるので、できれば開催せずに済むようにすることとした。
 4. 調査・審議課題の検討について
 - ・安藤委員より麻生区の農業の現状についての説明があった。
 - ・PR委員会の具現化、それぞれの魅力をどうつなぐか、空き家対策、農業への理解、といった今回の意見をふまえて、次回はより深めていくこととした。
【主な意見】
 - ・麻生区の魅力PR委員会の具現化に向けていきたい。最終的には担い手づくりまで行きたい。
 - ・これまで、イベント等でチラシを配るなどのPR活動はやっていた。それらを活用したPR委員会について検討したい。（第5期でも検討されているPR委員会の具現化）

- ・交流カフェという多世代に集ってもらえるようなカフェをつくろうとしている団体がある。麻生区のアート、農なども販売できるようなコミュニティカフェについて検討したらどうか。地域交流や空き家の活用にも繋がる。
- ・空き家の調査。どんな活用ができるのか、利用しやすい場所にあるのか。実態調査を行ったらどうか。
- ・高齢者や子どもが共に育ちあって行く場所に。その中で麻生の芸術・文化を織り込んでいく。そういった交流の場所を住民主体にしたい。
- ・今までの復習をした上で、第5期の課題はフォローが必要なものが多すぎてもったいない。今回の課題と一番近いものがこの中に組み込まれている。第5期のPR活動を活用する。
- ・ボランティア等の団体の活動場所がなかなかない。活動場所としての空き家を活用したらどうか。
- ・芸術、農を知ってもらうためにPR部門を設置する。そこから食文化などにつなげていき、ブランド化できたら良い。
- ・第5期中のPR委員会、キャッチフレーズを具体化する。第5期では後はプロに任せようという話になったが、もっと区民会議が主体性を持っていく。PR動画などを考えている。
- ・麻生区の農業を理解してもらい、知ってもらう。PR活動の中で農業を取り上げる。
- ・なぜPR活動をするかと考えたときに、将来の高齢化対策として若い人に入ってもらうため。若い人たちをいかに入れていくか。そのために麻生区は良いところだよ、という魅力発信。そういうことをやることによって更に芸術や子育てを啓発していく。
- ・横のつながりが必要かどうかという調査活動を行う。いろいろな団体の人達を集めて話を聞く。
- ・麻生区は家賃が高くて学生が下宿しない。そういうところも考えて空き家の活用を。せっかく6の大学があるのに学生が住まないのでは困る。
- ・いろいろな問題があるが、何ができて何ができないかの線引きをして、農業関係は状況を理解して頂ければ。
- ・空き家問題の空き家とは戸建てのイメージがあるが、実態はどうか。
- ・戸建ての空き家はまだまだ多くないのでは。川崎区はまちづくりが出来ていた。麻生区はまだできていない。川崎はすぐ家が売れて、そこにすぐ新しい家が建つ。若い人が求めているのは、まちづくりが出来ている所。そういうところが安心。不便な所に住む人が、年を取ってマンションに移り住み空き家が出来てしまう。そうして空いた場所は利用がしにくい。
- ・若い人（外から来た人）にとっての魅力は自然（農）・芸術・子育てがしやすい・安全。それをPRしていく。
- ・麻生区の農業は魅力。魅力を見直ししてどう発信するかが課題だと考える。
- ・麻生区の野菜を求める人は多い。需要が多いのに、供給の意欲が落ちているのが課題。意欲を上げるための方法を考えたい。
- ・芸術、環境、農などの魅力を細分化して横でつなぐとPR委員会につながる。そのシステムを仕掛ければよりそれぞれの活動が広がる。
- ・映画大学があるなど映像のまち川崎であることを活かす。
- ・麻生区が芸術のまちであることが外にはあまり知られていない。